

## 申し入れについて

私たち脱原発の市民グループ「サヨナラ原発福井ネットワーク」と「若狭ネット」は、来る**8月20日午後2時より**県庁内で、同封の申し入れ書に対する回答を求め若干の質疑の時間をもちます。

ご周知のように私たちは90年代中頃より、「行先のない使用済み燃料」をこれ以上つくらせぬことが現世代の私たちの子孫に対する責務である、とたびたび県に要請してきました。たとえば2003年に「2010年までに中間貯蔵施設を県外で操業開始するとの関電の約策」の実現性について県問い質しています。私たちのその問いに県は「長期保管につながるものとは考えていない」「中間貯蔵施設は2010年までに操業を開始するものと考えている」などと甘い見通しを述べていました。その結果、2003年の時点で若狭(関電)に貯蔵されていた約2,600トンの使用済み核燃料が、現在では4,280トンに膨れ上がってしまったのです。

現在、関電原発の全サイトでの乾式貯蔵計画が着々と進みつつあります。私たちは、他県での中間貯蔵であれサイト内貯蔵であれ、そのことによって、行き先のない使用済み核燃料(核のゴミ)はさらに増え続ける、と警鐘を鳴らす約10万枚のチラシを県内の新聞に折り込みました。

関電は、近い将来、再処理工場が稼働すれば青森へ、それが無理でも山口県上関町の中間貯蔵施設へ移送するから、若狭の原発サイト内での永久保管はないと杉本知事に説明し、知事もそれを受け入れようとしています。しかし、再理工場は、余剰プルトニウム問題が足かせ(2018年原子力委員会方針)となってフル操業は事実上困難な状況です。(前)規制委員長も2020年に、むつ市の「中間貯蔵施設」について「恐れるのは、使用済み核燃料を運び出す先がない状態で、燃料の容器の耐用年数に近づく事態だ」と貯蔵長期化の懸念を示していた通りです。

さて、これまで私たちは極めて抑制的に「再処理工場のフル操業は難しい」と指摘してきました。しかし最近、若狭ネット情報室長・長沢啓行大阪府大名誉教授は、プールサーマル稼働の現状から「**六ヶ所再処理工場は10%操業。40年で3,200トン処理に留まる**」と解析されました。これは、たとえ再処理工場の竣工が可能になったとしても、すでに六ヶ所再処理工場のプールに入っている使用済み核燃料を40年かけてようやく再処理することが可能となる数字であり、したがって、関電の原発プールに貯め込まれている4,600トンは、六ヶ所村へ搬出することなど不可能という実相が厳然として見えてきたのです。

さらに(申し入れ書に書いています)、関電の使用済み燃料の大半が高燃焼度燃料であり、これのみを六ヶ所再処理工場で再処理することは不可能であるという問題も見えてきました。つまり、上関町の中間貯蔵であれ関電のサイト内貯蔵であれ、いったん受け入れてしまえば、そのままその地が最終処分場となるという宿命を確実に背負わされることになるのです。

また、敦賀1号の使用済み燃料はむつ市中間貯蔵施設への搬入対象から外れています。つまり、敦賀原発サイトが最終処分地とならざるをえず、さらに、敦賀2号が廃炉となれば敦賀2号の使用済み燃料も、むつ市へ搬入されないことになるのです(むつ市の中間貯蔵施設は東電と日本原

電の使用済み燃料を搬出するという契約)。なぜなら、敦賀原発のプルトニウムは、敦賀2号でプルサーマルするのが前提なので、それができなくなれば、六ヶ所再処理工場での再処理対象からも外れるからです。

私たちは、すでに出来上がっている膨大な量の使用済み核燃料＝核のゴミを、将来にわたりどのように保管してゆくかの国民的議論を一日も早く始めるべきだと考えています。だからこそ、まずは「行き場のない使用済み核燃料をこれ以上つくらない」政策決定が必須なのです。ゴミを出し続けることを見過ごしつつ、これを誰が受け入れるかの議論を進めることなどできるはずがありません。

使用済み核燃料を保管する乾式容器は、40～50年後には劣化腐食して、海浜汚染を引き起こす可能性が大です。ひとたび海辺が汚染されれば、若狭地域の産業、観光も漁業も大打撃を受けます。過去に、敦賀・若狭の魚が大都市の市場から締め出されたことがありました。また、あらゆる差別が生まれる懸念もあります。福井県民にとって、嶺北に住む私たちにとっても、若狭はふるさとの一部です。そのかけがえのない故郷の海辺が、10万年ものあいだ、放射能漏れで海浜がくり返し汚染される可能性があることを、私たちは心から憂っています。

私たち福井県の人間は、青森県六ヶ所村の再処理工場が動きさえすれば、使用済み燃料は青森へ搬出されるから、とこともなげに言います。しかし、実際に再処理工場が稼働すれば、空と海に大量の放射能が日常的に垂れ流され続けます。(原発から排出されるトリチウムやクリプトンなどの1年分が再処理工場から排出され、英仏では再処理工場の周辺は超猛毒・長寿命のプルトニウムも検出されています)

それに、再処理工場が稼働すれば、核兵器の材料のプルトニウムと高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)が大量に生まれます。単に、使用済み核燃料がプルトニウムとガラス固化体に置き換わるだけなのです。そして、その使い道・引受先はありません。私たちはこれに抵抗してきた青森県の人たちと連帯して、政府のこの愚策をやめさせたいと願っています。

平日の午後のため、お仕事のある方には申し訳ありませんが、参加していただける皆さんは、県庁一階ロビーに午後1時半にお集まりください。

サヨナラ原発福井ネットワーク 連絡先 山崎隆敏

090-6271-8771